

3. 校園内で不審火が発生した場合

1. 日頃から留意すべき事項

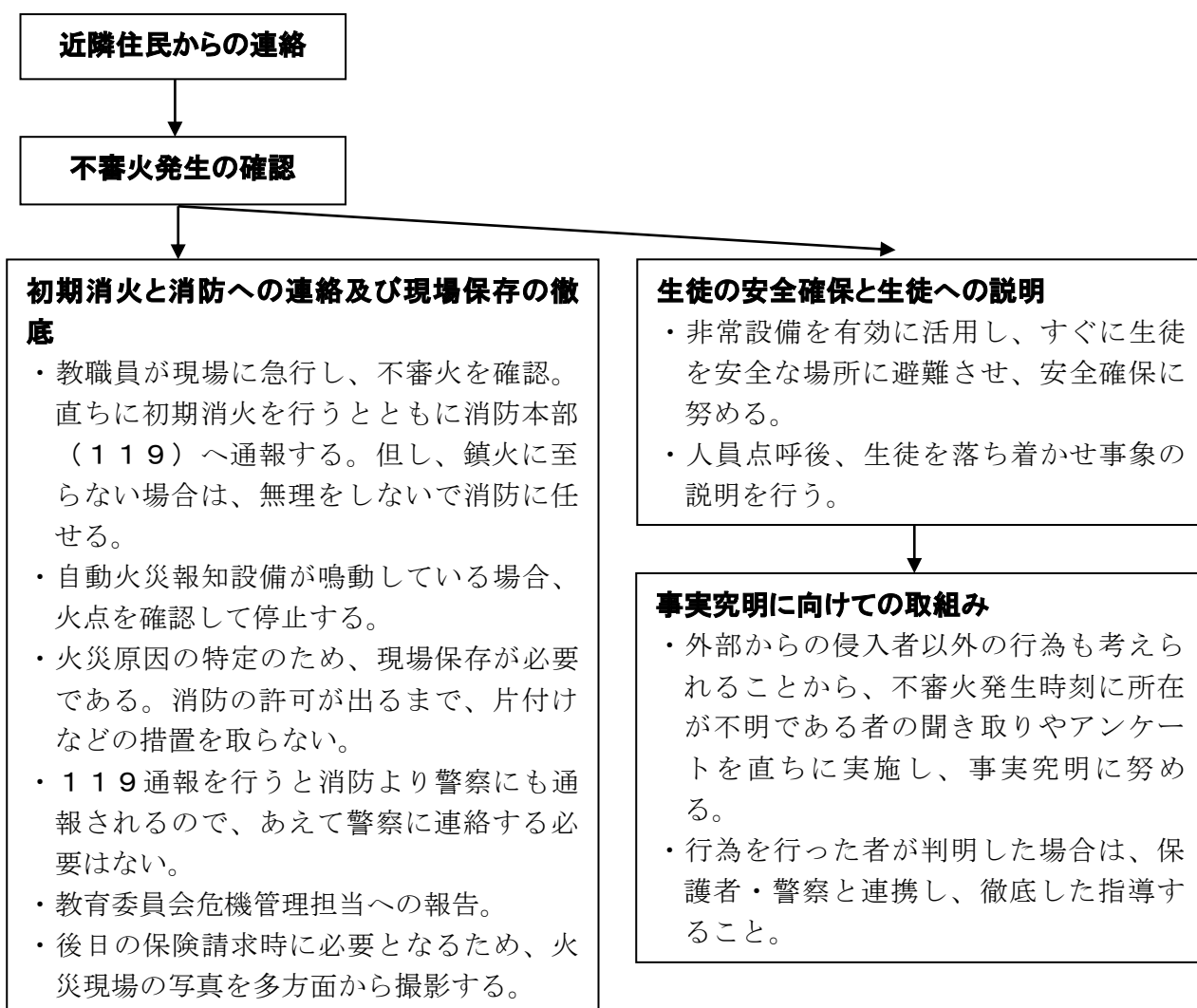
- ・ 外部からの侵入がないよう門を閉じ、校園外周のフェンス等にも侵入可能な箇所がないか確認し、必要に応じて修理を行っておくこと。
- ・ 校園舎内外を問わず、可燃物等を整理するなど、適正に管理しておくことが必要である。
- ・ 校内や近隣校などで不審火が発生した場合は、児童生徒の状況により、その行為を模倣する可能性があることから、校内における掲示物についても、一時的に取り去っておくなど適正な管理が求められる。
- ・ 防災関連マニュアルを整備し、消防計画に基づき、定期的な消防（通報・消火・避難）訓練を実施すること。

2. 緊急対応のポイント

《教職員が学校園に在勤している場合》

＜具体的事例＞

近隣の住民が「中学校の校舎外で不審火が発生している」と当該校へ連絡し、教職員が現場に急行した。



↓

校内の再点検の実施

- ・他に不審火が発生している箇所はないか、発生する可能性がある所がないか確認し、必要に応じて措置を講じること。

↓

保護者・地域関係者等への連絡

- ・火災発生当日中にプリントを作成し、配布する。
(文面については、判明している事実のみ記載すること)
- ・PTA役員や自治会関係者等に連絡する。

↓

マスコミへの対応について

- ・消防に連絡が入った時点で、堺市役所危機管理室危機管理課より市長公室広報戦略部広報課を通して、マスコミに情報が提供された場合、取材や問合せがある。窓口を一本化して、丁寧に対応すること。
- ・大きな事象である場合は、学校のみ対応ではなく教育委員会も同席してのプレス発表になることもある。その場合、Q&A集の作成を急ぐとともに、教育委員会とも慎重に検討すること。

↓

事後の取組み

- ・校内の可燃物の撤去を徹底する。
- ・生徒への説明と不審火防止に向けての指導を行う。
- ・保護者への説明と取組みへの理解を得る。

↓

事故報告書の提出 (教育委員会学校管理部 学校管理課)

→学校管理課から財産活用課へ保険金請求の手続きを依頼

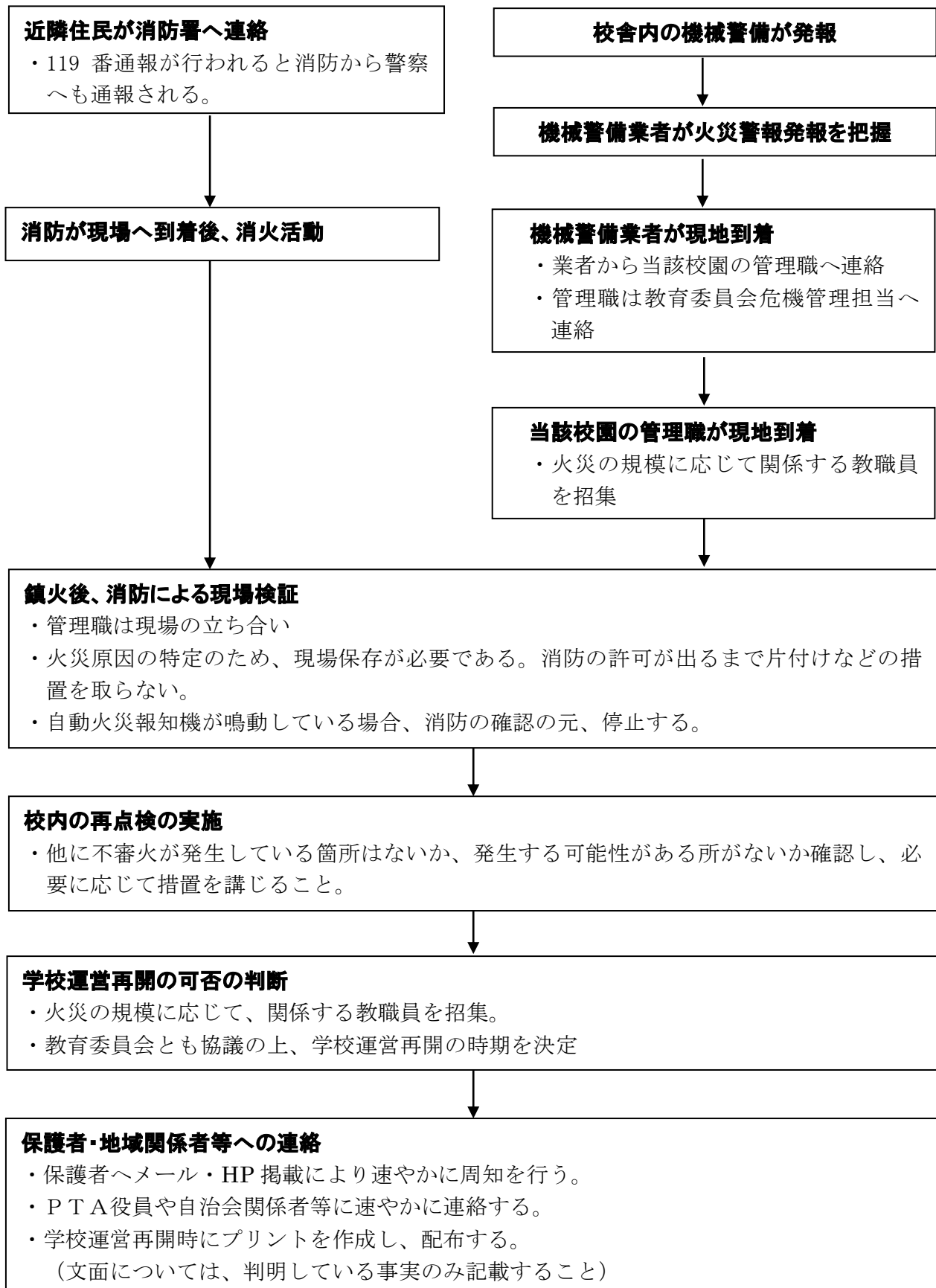
【これまでの発生事例から】

- ①不審火についての対応は、警察ではなく消防が中心となる。したがって、仮に鎮火・消火していたとしても、ただちに消防本部（１１９）に通報すること。
- ②不審火発生箇所で、消防のとらえが異なる。校舎内での発生であったとしても、延焼の可能性の大小を重く見る。壁が燃える等の不審火が発生している場合は、特に延焼の可能性が高いことから、現場保存など必要な措置を必ず取ること。

《教職員が学校園に不在の場合(夜間・土日祝日・学校閉庁期間等)》

＜具体的事例＞

近隣の住民が「中学校の校舎外で不審火が発生している」と消防本部(119)に通報した。





マスコミへの対応について

- ・消防に連絡が入った時点で、堺市役所危機管理室危機管理課より市長公室広報戦略部広報課を通して、マスコミに情報が提供された場合、取材や問合せがある。窓口を一本化して、丁寧に対応すること。
- ・大きな事象である場合は、学校のみでの対応ではなく教育委員会も同席してのプレス発表になることもある。その場合、Q&A集の作成を急ぐとともに、教育委員会とも慎重に検討すること。



事後の取組み

- ・校内の可燃物の撤去を徹底する。
- ・生徒への説明と不審火防止に向けての指導を行う。
- ・保護者への説明と取組みへの理解を得る。



事故報告書の提出 （教育委員会学校管理部 学校管理課）

→学校管理課から財産活用課へ保険金請求の手続きを依頼

3. 事後の対応のポイント

校園内で不審火が発生した場合は、事態が収拾した後、児童生徒等の心のケアを行うとともに、情報を整理し、調査・報告を行い、関係機関（消防、警察等）の指示・指導を受け、再発防止につなげる。（Ⅰ－6「心のケア」参照）